

Vol.1
7/17 ~ 7/24

上手な使い方

→ …押すと次のページに進みます

← …押すと前のページに戻ります

サムネール表示は設定で消すことも可能です



KoregaUchinoKodomo

記念すべき第1回 YATZ WEB 杯争奪 (違うだろ) 「コレガウチノコドモ」
は、まず出産前後からスタートしよう。

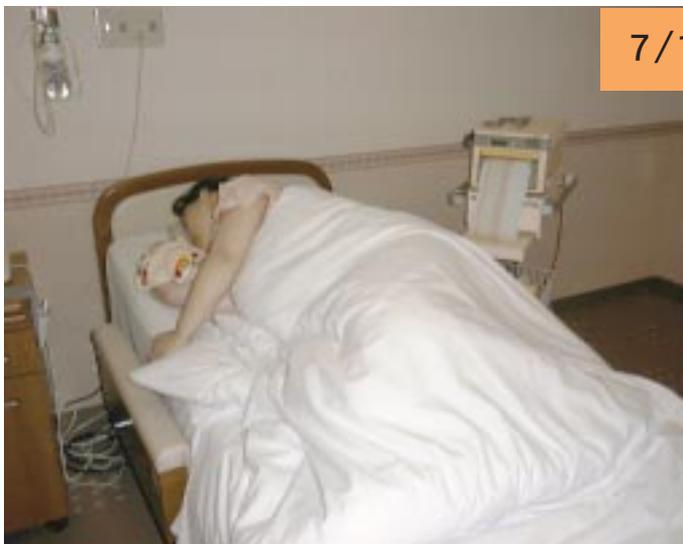


7/16 12時59分

左の写真は、カミさんが入院してすぐ撮影したもの。実は出産する12時間前の姿でもある。元気にお昼ご飯を食らっているところ。

しかし、である。

夕方ぐらいから腰の痛みを訴えはじめ、午後10時過ぎに分娩室の隣の部屋(いわゆる陣痛室)に移動。痛そうである。



7/16 22時19分

唸り中。
右のほうに見えるのが、心拍数などをプリントするモニターだ。



KoregaUchinoKodomo

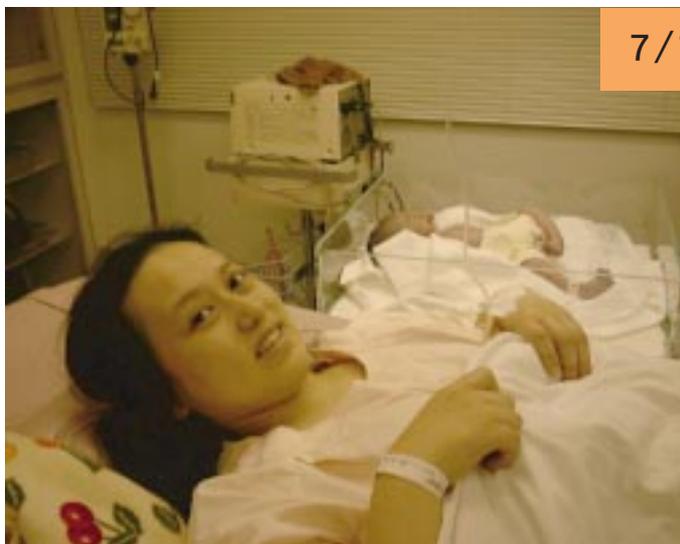
まだまだ苦しそうである。



7/16 22時20分

この状態は、午前0時頃まで続き、0時20分頃、分娩室へ入室した。

病院の先生は、(生まれるのは)「**明け方になるだろう**」、とおっしゃっていたので、私は病室で自作のおにぎりを食べていた。無論、長丁場に備えての腹ごしらえであった。「今夜は長い戦いになるな・・・」そうつぶやいていると、義母が「やっくん!やっくん!」(注:カミさんの実家での私の愛称である)と呼びに来た。



7/17 1時5分

生まれてきた。
「なんぼなんでも早すぎや・・・」
こうして、0時50分に我が長男が誕生した。



KoregaUchinoKodomo

羊水から出てきたばかりの赤ちゃんは、やはり**老人顔**。
この時は、やはり「可愛いなあ」とは思いにくい。
ようこそ八ツ藤家へ!と思った。



7/17 1時6分

元気に泣いている。
関係無いが、羊水のことをアンドレカンドレと呼ぶ内輪ギャグが我が家で流行った。

早速、**我が家の王子様**(笑)を一目見ようと、病院に来てくれた方々のスナップである。



7/17 17時3分

カミさんのご両親。
つまり私にとっての義父と義母。

ちなみに、向かって左が義母で右が義父だ。



KoregaUchinoKodomo

生まれた当日の為、面会しに来ててもガラス越しになってしまう状態だったが、それでもまだラッキーと言えた。



7/17 17時17分

私の親兄弟。
左から、母、父、長兄。
長兄は山中湖村在住だが、車を父に届ける用事も兼ねてわざわざ来てくれた。

17日の夜、赤ちゃんが自分で呼吸を止めてしまう「無呼吸発作」が何度かあり、よくあることだが、念のため大きな病院で診たほうが良い、ということで急遽入院が決定。埼玉県立小児医療センターへ移されることになった。その直前、カミさんの地元の友達が出来てくれた。



7/18 15時49分

左から、すいかちゃん、ミナさん、りつたん、ラフィンさん。本当はラフィンさんの旦那さんとお子さんも来ていたが、丁度不在。



KoregaUchinoKodomo

無呼吸発作自体は、未熟児によくあることなので、40週お腹のなかにいたうちの子が呼吸を止めるのは、奇妙なものだが、多分、**ボーッと**しているのだろう。



7/18 16時5分

左から、リーちゃん、マサヨちゃん。
字が分からないところは勘弁してほしい。

私はこれまで救急車には一度も乗ったことが無かったのに、うちの子供は生まれた翌日に乗っている。

相当な車好きと判断。



7/18 17時29分

搬送中の救急車の車内。V-80TR ATOM TransCupsuleの中に子供が入っているのがわかるだろうか。手が写っているのは、小児科の女の先生。写真が好きで、写真集を自費出版していたり、デジカメも持っているなど、とても昭和5年生まれな方とは思えない若さである。



KoregaUchinoKodomo

大宮栗橋線という、片側2車線の幹線道路をサイレンを鳴らしながら搬送したが、救急車に対して道を譲らないという、マナー（マナー以前の問題だと思うが）の悪いドライバーが、思ったより多い。車を寄せて、減速あるいは停止するだけの事がどうして出来ないのか、甚だ疑問である。



7/18 17時30分

先生が気を利かせて「ここから撮ってあげなさいよ」と蓋を開けてくれた。

小児医療センターに到着し、簡単な手続きを済ませた。
敷地の広い、立派な病院で少し安心する。



7/18 18時41分

病院の外観。
帰りは、救急車に乗れるはずもなく、駅までタクシー、電車と乗り継いで帰った。
「この病院に入れたんなら、8割方大丈夫ですよ」
元気づけてくれるタクシー運転手の言葉がありがたい。



KoregaUchinoKodomo

かくして、長男の入院生活が始まった。
自分はこうして面会に来られるからいいものの、産後すぐに引き離されてしまったカミさんが可哀想である。室内にカメラ類を持ち込めるので、毎日撮っては、病院に行って再生してやる日々。



7/19 16時12分

口のそばに酸素が来ている。
まだ口から上手く飲めないで、鼻からチューブを通して、ミルクを飲ませている。うつぶせ寝にしているのが少し心配だったが、数日後にあおむけ寝になっていた。

7/21 カミさん退院。授乳をしたいので毎日通うことに。
主治医の名越先生はとても良い感じで、2人して「名越くん」と陰で馴れ馴れしく呼んでいた。検査で異常が何も見られず、原因がはっきりしないので、もうしばらく預らせて欲しいとのこと。毎日、若い看護婦さんに世話をもらってる長男は**相当の女好き**と判断。



7/24 19時19分

病院の室内。
ここで出てくるパイプ椅子はどれも座面が前に傾いており、大変に座りづらい。

